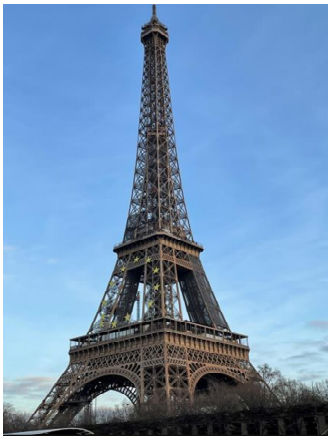
174　２つのシンボルタワーと２つのメトロ-パリと東京（2023 年７月６日）



パリのシンボルと言えば、エッフェル塔が挙げられます。1889 年に開催された第四回パリ万国博覧会の機会に、ギュスターブ・エッフェル（1832-1923）が代表を務めるエッフェル社が施工し、現在は電波塔として利用されています。高さ 330 メートルのエッフェル塔の優美な姿は、世界中からパリを訪れる観光客を魅了しているだけではなく、季節や時間帯によって色や見え方が変化する姿は、パリに暮らす者の目も楽しませてくれています。

エッフェル塔の展望台には、世界の主要なタワーがある方向とエッフェル塔からその塔までの距離を示したパネルがあります。そのパネルには、エッフェル塔から 9,739 キロ離れた東京タワーが記載されています。

東京タワーは、電波塔として建設され、1958 年に完成しました。2013 年に地上デジタルテレビ放送への移行に合わせて東京スカイツリーの運用が開始されたことから、東京タワーは電波塔としての役割はほぼ終えましたが、現在でも東京の有名な観光地として、多くの観光客が訪れています。

東京タワーは、エッフェル塔と姿が似ていることから、しばしば２つの塔は比較されます。東京タワーの設計を任されたのは、内藤多仲（1886-1970）という構造建築学者で技術者でした。内藤がこの塔を設計するに当たって一番考慮したのは、耐震構造でした。日本は、頻繁に地震が発生し、台風の通過も多い国です。日本は、欧米諸国から様々な建築技術を学んで取り入れましたが、地震が少ない欧米諸国では耐震構造の研究はあまりなされておらず、内藤は日本の土地や気象条件に耐え得る構造技術を研究しました。東京タワーは、真上から見ると正方形になっており、正面から見ると下から上に向かって曲線を描いています。専門家によると、末広がりの形にすることで土台が安定し、地震や風によって塔にかかるエネルギーに無理なく抵抗することができるそうです。完成当時は、エッフェル塔を真似たのではないかとする批判もありましたが、安全性を最優先

に設計した結果、現在の東京タワーの形になったと内藤が生前に語ったと伝えられています。設計当初は、煙突のような形が検討されという記録が残されており、内藤は本当はエッフェル塔とは異なる形の塔を設計したかったのではないかと推測されています。

エッフェル塔のほかにパリを代表するものとして、メトロが挙げられます。パリのメトロの１号線と２号線は、1900 年に開催された五回目のパリ万国博覧会に合わせて開業しました。メトロの駅の入口をデザインしたのは、アールヌーボーを代表するフランスの建築家であるエクトル・ギマール（1863-1942）です。ギマールが作った入口の多くは取り壊されましたが、一部残されている駅もあります（写真上は、12 号線のアベス駅の入口）。

La ligne 9 au début du 20e s. et d'aujourd'hui
メトロ９号線の今と昔

日本では、1927 年に東京の浅草と上野の間にアジア初の地下鉄が開業しました。戦前から 60 年以上にわたって続いた営団地下鉄（正式名称は、帝都高速度交通営団）は、2004 年に東京地下鉄株式会社（東京メトロ）となりました。「東京メトロ」とは、同社が決定した公式の愛称です。「メトロ」は、フランス語のメトロに由来します。同社のウェブサイトによると、「東京メトロ」という愛称は、誰からも分かりやすく、呼びやすいことを考慮して決定されたとのことです。ライトブルーのシンボルマークには、メトロのＭの意味も含まれています（写真上は、中央省庁が集まる霞ヶ関駅）。東京の中を移動するときには必ず利用する地下鉄には、実はフランスとの隠れたつながりがありました。